

第3回日本混合研究法学会年次大会/ 国際混合研究法学会アジア地域会議

実行委員長 稲葉 光行



本会議は、近年世界的に、医療、看護、教育といった実践研究分野において積極的に用いられ始めた研究手法である「混合研究法」に関する学会である、日本混合研究法学会の第3回年次大会である。本会議は、2015年9月の学会創立記念大会同様、本年2017年8月に再び立命館大学いばらきキャンパスにおいて、国際混合研究法学会（Mixed Methods International Research Association: MMIRA）のアジア地域会議との共同開催という形となる。

大会テーマは、「変革を志向する混合研究法の実践」（Achieving Transformation through Mixed Methods Research）である。招待講演者には、聴覚障害者のための専門大学として世界的に著名な米国ギャロウデット大学（Gallaudet University）の名誉教授D. マートンズ博士（Donna Mertens, PhD）をお招きし、「社会変革を志向する研究方法としての混合研究法」についてご講演いただく。マートンズ博士は、混合研究法における変革パラダイムを提唱した方であり、混合研究法コミュニティを牽引する重鎮の一人である。本会議の目的は、実践研究を通して社会変革を志向する上で、混合研究法がいかに有用なツールとなり得るかという点に焦点を当て、看護、医療、福祉、教育といった実践分野の研究者に対し、これまでよりさらに踏み込んだレベルで、混合研究法について知って頂く機会を提供することである。専門家米国日本の研究者が自身の混合型研究を発表する場を提供すると同時に、海外から参加される著名な混合研究法エキスパートから研究に対するフィードバックを得る機会を提供することも、本会議の目的である。

大会1日目の午前には、エキスパートによるワークショップが提供される。午後には、MMIRA初代理事長ジョン・クレスウェル博士（John Creswell, PhD）とMMIR現理事長トニー・オンウェノブージー博士（Anthony J. Onwuegbuzie, PhD）の基調講演を予定している。大会2日目の午前には参加者による研究発表を、午後にはマートンズ博士の招待講演および齋藤清二教授が座長を務める、日本人研究者によるパネルディスカッション「臨床実践と混合研究法」を予定している。なお、大会前日の午後にも、主に日本語によるプレカンファレンス・ワークショップの開催が予定されている。



マートンズ氏



クレスウェル氏



オンウェノブージー氏

文責：

稲葉光行
立命館大学政策科学部教授
日本混合研究法学会理事



第3回日本混合研究法学会年次大会/ 国際混合研究法学会アジア地域会議

大会長 マイケル・D・フェターズ



立命館大学大阪いばらきキャンパス

第2回国際混合研究法学会アジア地域会議／第3回日本混合研究法学会学術集会の大会長として、立命館大学大阪いばらきキャンパスの最先端の美しい会場で8月4日、5日、6日に開催される学術集会への皆さまのご参加を願いつつ、このメッセージを書かせていただいております。

本大会のテーマは、「変革を志向する混合研究法の実践」(Achieving Transformation through Mixed Methods Research)です。このテーマは、混合研究法が参加型の「変革研究」において、いかに変化をもたらす手段となり得るかという点とともに、哲学、方法論、および方法の次元を通じた質的および量的手順の体系的な統合によって新たな理解を生み出すという点において、本研究アプローチがいかに変革的であるかを強調しています。

ドナ・マートンズ先生(ギャローデット大学)、ジョン・クレスウェル先生(ミシガン大学)、トニー・オンウェノブージー先生(サム・ヒューストン州立大学 / ヨハネスブルグ大学、国際混合研究法学会会長)による基調講演が予定されています。加えて、これらの基調

講演者およびマイク・フェターズ・抱井尚子先生、ロジェリオ・ピント先生、八田太一先生、広瀬真理子先生、田島千裕先生、河村洋子先生による、混合研究法のような話題に迫るワークショップが用意されています。

本大会は、初心者から上級者に至るまで、混合型研究を実践する様々なレベルの研究者に貴重な機会を提供します。投稿カテゴリーは、「実施中または計画段階の研究」から「完了した研究」まで、さらには「理論的・哲学的視座」に関する発表と、多岐にわたります。発表者は、ポスターまたは口述の2つから発表形態を選ぶことができます。すべての基調講演には同時通訳が付きます。また、英語のワークショップには日本語のサポートが付き、日本語で実施されるワークショップもあります。

それでは、大阪で皆さまにお会いすることを楽しみにしております。



立命館大学大阪いばらきキャンパス

文責:

マイケル・D・フェターズ
ミシガン大学家庭医療講座教授

The MMIRA & JSMMR invite you to 2017
 Asia Regional Conference in Ibaraki, Osaka, Japan

August 4th-6th, 2017



第3回日本混合研究法学会年次大会/
 国際混合研究法学会アジア地域会議
 日時: 2017年8月4日(金)~6日(日)
 場所: 立命館大学
 大阪いばらきキャンパス

大会テーマ:「変革を志向する混合研究法の実践」

2017年8月4日(金)

13:00-16:00 プレカンファレンス・ワークショップ

- 八田太一(京都大学)(使用言語:日本語)
- 廣瀬真理子(関西学院大学)(使用言語:日本語)
- 河村洋子(静岡文化芸術大学)(使用言語:日本語)
- 田島千裕(学習院女子大学)(使用言語:日本語)
- Elizabeth G. Creamer(バージニア工科大学)(使用言語:英語)

2017年8月5日(土)

9:30-12:30 プレカンファレンス・ワークショップ

- John W. Creswell(ミシガン大学)(使用言語:英語)
- Michael D. Fetters(ミシガン大学)& 抱井尚子(青山学院大学)(使用言語:日本語)
- Donna M. Mertens(ギャローデット大学)(使用言語:英語)
- Anthony Onwuegbuzie(サム・ヒューストン州立大学)(使用言語:英語)
- Rogério Pinto(ミシガン大学)(使用言語:英語)

13:30-13:50 開会式

13:50-14:50 基調講演1

"Trends and Advances in Mixed Methods Research"

Anthony Onwuegbuzie(サム・ヒューストン州立大学/MMIRA会長)

15:00-16:00 基調講演2

"Embedding Core Designs into Complex Designs, Methodologies, and Theories"

John W. Creswell(ミシガン大学)

16:10-17:10 パネルディスカッション(MMRオープン・フォーラム)

17:20-18:20 ポスター発表

18:30-20:00 懇親会

2017年8月6日(日)

8:15-8:55 チュータリング・セッション

9:00-10:30 口頭発表1(パラレル)

10:45-12:15 口頭発表2(パラレル)

12:30-13:20 JSMMR総会

13:30-14:30 特別講演

"Strengthening the Bond between Ethics and Research through Transformative Mixed Methods Approaches"

Donna M. Mertens(ギャローデット大学)

14:30-14:45 開催校挨拶 渡辺公三(立命館大学副総長)

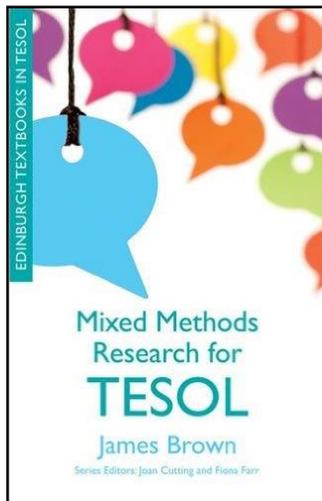
15:00-16:30 パネルディスカッション「臨床実践と混合研究法」

16:30-17:00 閉会式

書籍紹介

James Brown著
『Mixed Methods Research for TESOL』
Edinburgh University Press (2014)

既刊



本書は、大学院で英語教授法を学ぶ教師や英語教育学を専門とする研究者のための入門書である。著者のBrown氏はハワイ大学の教授で、テスト・評価研究の専門家として知られている。構成は3部10章から成り、第1部 Getting Research Startedでは、質的研究、量的研究、混合研究の基本概念、研究計画の方法、データの収集法について扱っている。第2部 Analyzing Research Dataでは、質的、量的、混合研究、それぞれのデータ分析法を解説している。第3部 Presenting Research Studiesでは、質的、量的、混合研究の結果の提示方法、論文の構成と出版方法について説明している。各章末で2本の論文が紹介されており、英語教育学においてよく用いられるアクションリサーチ、コーパス研究、統計研究、談話分析研究、プログラム評価研究、教室研究、調査研究、テスト研究の8種類の研究方法についても理解を深めることができる。本書を通読することで、読者は研究計画から論文執筆まで、研究過程に沿って基礎を学ぶとともに、幅広い英語教育研究

から自身の興味や研究課題に合った研究方法を選択することができると思われる。

本書は入門者に有益な一方で、二点の課題を有する。一点目は、哲学的認識論についての言及がほとんどないことである。入門書のため、あえて言及しなかった可能性もあるが、混合研究に従事する際も、哲学的認識論の理解は不可避である。二点目は、研究計画段階における説明的順次デザインや収斂的デザインなどの混合研究法デザインの類型と統合された結果の提示方法について、具体的な説明があまりされていないことである。英語教育学分野の国際誌掲載論文において、量的・質的データを組み合わせた研究は増えてきている。しかし、混合研究法デザインと銘打った上で、近年推奨されているジョイント・ディスプレイの形で統合された結果を明示している論文は少ない。今後、英語教育学研究においても、哲学的認識論を踏まえた混合研究法の有用性と方法論への理解が深まり、新たな入門書が出版されることを期待したい。

268頁

(アマゾン参考価格) 3,030円

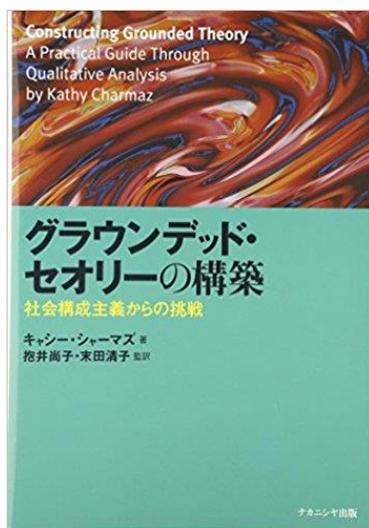
文責:

高木亜希子
青山学院大学教育人間科学部准教授

書籍紹介

Kathy Charmaz (原著2006)
『グラウンデッド・セオリーの構築: 社会構成主義
からの挑戦』
(抱井尚子・末田清子, 監訳) ナカニシヤ出版(2008)

既刊



英語教育を生業とする私にとって、生徒がどのように知識を習得し、変化をしていくかについて分析することは、必要不可欠であり、また、授業を効果的に展開する上で、生徒の生の声を分析することは、授業力の向上にもつながる手段である。もちろん模試の結果などの量的データの量的分析も重要であるが、量的データと共に、質的データを扱うことで、なぜ、その量的データが導き出したのかについての本質的な理由を探ることができる。質的データの分析については、量的分析を中心に扱っている研究者にとっては、非科学的な分析方法であるという見解を耳にすることがある。しかしながら、教育現場のような、人と人とが関わり合いながら、成果をもたらす現場において、量的な分析だけでは、研究結果を実際に活かすことのできない分野も多く存在する。その悩みを解決するのは、量的分析と質的分析を統合する研究方法である

混合研究方法であるが、今回の書籍紹介に当たり、私がこれまで主に行ってきた質的データの実践的な分析方法論が記された書籍「グラウンデッド・セオリーの構築」を紹介したい。本書は質的データの分析方法であるグラウンデッド・セオリーアプローチ（以下GTA）について、その歴史や近代におけるGTA、そして、その理論や方法論そして、質的データの妥当性の検証まで体系的に記された書籍である。GTAを始めるに当たって、GTAの全体像を把握する上で最適な書籍であり、私自身も生徒の授業の感想や学習の変化を分析する際に、インタビューなど質的データの取り方、そして、GTAによるデータ分析方法を参考にさせていただいた。また、GTAの背景にある社会構成主義の考え方など、GTAについて基本的な知識を習得することができる。本書籍に触れることで、GTAの基礎を学ぶことができ、その他のGTAの関連書を理解する際にも役立った。GTAは様々な研究分野の質的データの分析方法として、多くの研究者が取り扱っており、実践的な分析方法が大いに参考にできる研究方法である。本書とGTAによる研究実践を参考に、発展的な質的データの分析も可能であると考えられる。

221頁

(Amazon参考価格) 6,298円

本書の第二版が『グラウンデッド・セオリーを構築する』（岡部大祐監訳）というタイトルで近日出版予定。

文責:

長友隆志
宮崎県立高鍋高等学校外国語科教諭

2017年度青山学院英語教育研究センター／ 大学英語教育学会関東支部共催講演会(第1回) 2017年4月8日 青山学院大学

講演会 参加報告

講演:

「英語教育研究における混合研究法の可能性」

講師: 抱井尚子

青山学院大学国際政治経済学部

国際コミュニケーション学科教授

本講演は、言語教育・言語学習を研究分野とする混合研究法（以下MMR）の初学者を対象に、MMRアプローチのキーコンセプトをわかりやすく紹介するものであった。講演者の抱井尚子氏は、青山学院大学国際政治経済学部国際コミュニケーション学科教授。2015より日本混合研究法学会理事長を務める。混合研究法に関する論文及び著書を、日本語および英語で多数出版し、近著には『混合研究法入門—質と量による統合のアート』（2015年、医学書院）がある。

講演は、7部構成であった。まず(1)「はじめに」では、言語教育・言語学習研究に特化したMMR書籍が紹介された。(2)「MMRとは」では、質的・量的の研究対称を見る目線の相違や研究現象へのアプローチの相違について、それぞれの特徴を知ることにより、その統合であるMMRの研究手続きを理解することの重要性が説かれた。さらに、近年のMMRには、質的研究主導型や量的研究主導型に見られるような多様性が出現している点も示された。(3)「MMRの目的・デザイン・統合」では、MMRを用いる上での多様な目的が、Greene et al. (1989)とBryman (2007)の論考をもとに紹介され、加えて、基本型及び応用型の研究デザイン類型、およびデータ統合の目的と類型について概説がなされた。(4)「混合型研究の手順」では、7つのMMR実施手順のステップが紹介された。(5)「混合研究論文の構成」では、研究手順ダイアグラムやジョイントディスプレイの活用について言及があった。

(6)「言語教育・言語学習教育の混合型研究例」では、英語教育・英語学習研究の2つの研究例が紹介された。最後の(7)「むすび」では、「研究対象者のイーミックな視点と研究者のエティックな視点の両方を活かし、現象の複雑性を捨象しない知の獲得が、混合研究法によって支援される」ことが強調された。

一時間半の講演会では、MMRの哲学的な基盤から方法論にわたり、幅広く解説がなされた。遠方から参加した甲斐があったと語る研究者の声も耳にした。講演会の盛会は、今後さらに言語教育・言語学習の分野において、MMRの活用が進むことを予感させるものであった。



講演PPTより

Bryman, A. (2006). Integrating quantitative and qualitative research: How is it done? *Qualitative Research*, 6(1), 97-113.

Greene, J. C., Caracelli, V. J., & Graham, W. F. (1989). Toward a conceptual framework for mixed-method evaluation designs. *Educational Evaluation and Policy Analysis*, 11 (3), 255-274.

報告者:

田島千裕
学習院女子大学国際文化交流学部准教授
日本混合研究法学会理事

年次大会早期申し込み

日本混合研究法学会第3回年次大会/国際混合研究法学会アジア地域会議の早期申込期限は、7月24日(月)です。お申し込みはお早目に。プログラムを含め詳細は下記をご覧ください。

<http://www.jsmmr.org/conference/jsmmr2017>

大会運営委員募集

8月の大会運営委員を募集しています。当日のお手伝いが可能という方、あるいは残り少ない準備期間ではございますが、準備段階から携わってくださる方も募集します。ご連絡は下記までお願いします。

国際混合研究法学会アジア地域会議 事務局
Email: jsmmr.adm@gmail.com

事務局からのお知らせ

【会費】

会計年度は4月～翌年3月です。郵送にて会費請求書が届き次第、お早めにお振込みをお願い致します。

【会員情報】

会員の基本情報(住所、勤務先など)が変更となった場合は、メールにて事務局まで届け出てください。

【メーリングリスト】

会員向けメーリングリストで案内を希望されるイベント(ワークショップや研究会など)がございましたら事務局までご連絡ください。

事務局Email: jsmmr.adm@gmail.com

編集後記

ニュースレター4号では、主に8月に開催する年次大会/国際混合研究法学会アジア地域会議へのお誘いとして大会広報を行いました。大会を数週間後に控え、充実した大会開催を目指し、JSMMR理事及び大会実行委員一同、現在最終準備段階を迎え、慌ただしくしております。会員の皆さまと今年も再会できますことを、心待ちにしております。

ニュースレター第5号は6か月後に発行予定です。掲載ご希望の記事がございましたら、下記事務局メールアドレスまでお送り頂けますようお願い申し上げます。記事は随時受け付けております。

NL記事宛先(事務): jsmmr.adm@gmail.com

ニュースレター編集委員: 田島千裕

日本混合研究法学会

ニュースレター第4号

【発行日】2017年7月10日

【発行者】日本混合研究法学会

【理事長】抱井尚子・青山学院大学

【副理事長】尾島俊之・浜松医科大学

【理事】

福田美和子・東京慈恵会医科大学

八田太一・京都大学

稲葉光行・立命館大学

井上真智子・浜松医科大学

亀井智子・聖路加国際大学

成田慶一・京都大学

野崎真奈美・順天堂大学

田島千裕・学習院女子大学

【事務局】

福田美和子・東京慈恵会医科大学